

貯 法：室温保存、直射日光を避けて保存すること。

有効期間：3年

承認番号 21500AMZ00117000

販売開始 2003年6月

## 手指用殺菌消毒剤

## スクラベインS4%液 ScrubeingS4%

## 2. 禁忌(次の患者には投与しないこと)

クロルヘキシジン製剤に対し過敏症の既往歴のある者[8.参照]

## 3. 組成・性状

## 3.1 組成

有効成分	クロルヘキシジングルコン酸塩液を20vol%含有
添加剤	ラウリルジメチルアミノキシド、ラウリン酸ジエタノールアミド、ポリオキシエチレンポリオキシプロピレングリコール、グリセリン、エタノール、アラントイン、パルミチン酸イソプロピル、pH調整剤、赤色102号を含有する。

## 3.2 製剤の性状

色・剤型	赤色澄明な粘稠性の液体
におい	特異なにおいがある
pH	5.5～7.0
比重 $d_{20}^{20}$	1.045～1.065

## 4. 効能・効果

医療施設における医師、看護師等の医療従事者の手指消毒。

## 6. 用法・用量

## 〈術前、術後の術者の手指消毒の場合〉

手指及び前腕部を水でぬらし、本剤約5mLを手掌にとり、1分間洗浄後、流水で洗い流し、更に本剤約5mLで2分間洗浄をくりかえし、同様に洗い流す。

## 〈術前、術後の術者以外の医療従事者の手指消毒の場合〉

手指を水でぬらし、本剤約2.5mLを手掌にとり、1分間洗浄後、流水で洗い流す。

## 8. 重要な基本的注意

ショック、アナフィラキシー等の反応を予測するため、使用に際してはクロルヘキシジン製剤に対する過敏症の既往歴、薬物過敏体質の有無について十分な問診を行うこと。[2.、9.1.1.、11.1.1参照]

## 9. 特定の背景を有する患者に関する注意

## 9.1 合併症・既往歴等のある患者

## 9.1.1 薬物過敏体質の者(クロルヘキシジン製剤に対し過敏症の既往歴のある者を除く)

[8.参照]

## 11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には使用を中止するなど適切な処置を行うこと。

## 11.1 重大な副作用

## 11.1.1 ショック(0.1%未満)、アナフィラキシー(頻度不明)

血圧低下、じん麻疹、呼吸困難等があらわれた場合は、直ちに使用を中止し、適切な処置を行うこと。[8.参照]

## 11.2 その他の副作用

	0.1～5%未満
過敏症	発疹

## 14. 適用上の注意

## 14.1 薬剤使用時の注意

14.1.1 本剤は希釈せず、原液のまま使用すること。

14.1.2 経口投与しないこと。誤飲した場合には、牛乳、生卵、ゼラチン等を用いて、胃洗浄を行うなど適切な処置を行う。

14.1.3 手指消毒以外の目的には使用しないこと。

14.1.4 眼に入らないように注意すること。眼に入った場合には、直ちによく水洗すること。

14.1.5 溶液の状態です長時間皮膚と接触させた場合に皮膚化学熱傷を起こしたとの報告があるので、注意すること。

## 14.2 薬剤使用後の注意

本剤の付着した白布を次亜塩素酸ナトリウム等の塩素系漂白剤で漂白すると、褐色のシミができることがある。漂白には過炭酸ナトリウム等の酸素系漂白剤が適当である。

## 15. その他の注意

## 15.1 臨床使用に基づく情報

クロルヘキシジングルコン酸塩製剤の使用によりショック症状を起こした患者のうち数例について、血清中にクロルヘキシジンに特異的なIgE抗体が検出されたとの報告がある<sup>1)</sup>。

## 16. 薬物動態

## 16.2 吸収

16.2.1 5例の健康成人男性の上腕皮膚面50cm<sup>2</sup>に、5%又は4%の標識されたクロルヘキシジングルコン酸塩液(18 $\mu$ Ciの<sup>14</sup>Cを含有)を塗布し3時間放置した。<sup>14</sup>C標識物質は塗布後6時間及び24時間後の血中から検出されなかった<sup>2)</sup>(外国人データ)。16.2.2 15例の健康成人が4%のクロルヘキシジングルコン酸塩液10mLで手指と腕の消毒を3週間(1日5回、週5日)行ったが、消毒30分後の血中からクロルヘキシジン及びその誘導体は検出されなかった<sup>2)</sup>(外国人データ)。

## 16.5 排泄

5例の健康成人男性の上腕皮膚面50cm<sup>2</sup>に、5%又は4%の標識されたクロルヘキシジングルコン酸塩液(18μCiの<sup>14</sup>Cを含有)を塗布し3時間放置した。塗布後10日間の糞尿中の<sup>14</sup>C標識物質の総量の測定では、尿中から検出されず、2例の糞便中から塗布量の0.009%以下の<sup>14</sup>C標識物質が検出された<sup>2)</sup>(外国人データ)。

## 17. 臨床成績

### 17.1 有効性及び安全性に関する試験

#### 17.1.1 国内臨床試験

術前、術後の術者の手指消毒試験及びその他の医療従事者の手指消毒試験で本剤の消毒効果が認められた<sup>3)-12)</sup>。

## 18. 薬効薬理

### 18.1 作用機序

作用機序は十分には解明されていないが、比較的low濃度では細菌の細胞膜に障害を与え、細胞質成分の不可逆的漏出や酵素阻害を起こし、比較的高濃度では細胞内の蛋白質や核酸の沈着を起こすことが報告されている<sup>13) 14)</sup>。

### 18.2 抗菌作用

**18.2.1** 本剤の各種細菌、真菌類に対する最小発育阻止濃度は日局クロルヘキシジングルコン酸塩液とほぼ同等である<sup>3) 4)</sup>。

**18.2.2** 本剤は手洗い直後から数分以内に消毒効果が期待され<sup>3) -8)</sup>、その効果は手洗い後少なくとも1時間は持続する<sup>7)</sup>。

#### 18.2.3 殺菌力試験

(1) スクラベインS4%液のグラム陰性菌に対する殺菌力<sup>15)</sup>

供試菌	供試菌数 CFU/mL	作用時間 (秒)	スクラベイン S4%液
<i>Pseudomonas aeruginosa</i> ATCC15422	4.3×10 <sup>9</sup>	60	-
<i>Serratia marcescens</i> ATCC 14756	2.5×10 <sup>8</sup>	60	-
<i>Escherichia coli</i> ATCC10536	7.3×10 <sup>8</sup>	60	-
<i>Salmonella choleraesuis</i> IFO15335	4.9×10 <sup>8</sup>	60	-

(-) : 死滅 (+) : 増殖

(2) スクラベインS4%液のグラム陽性菌に対する殺菌力<sup>15)</sup>

供試菌	供試菌数 CFU/mL	作用時間 (秒)	スクラベイン S4%液
<i>Staphylococcus aureus</i> ATCC6538	1.9×10 <sup>9</sup>	60	-
<i>Staphylococcus aureus</i> MRSA-1	2.2×10 <sup>8</sup>	60	-

(-) : 死滅 (+) : 増殖

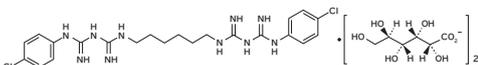
## 19. 有効成分に関する理化学的知見

一般の名称：クロルヘキシジングルコン酸塩液 (Chlorhexidine Gluconate Solution)

化学名：1,1'-Hexamethylenebis[5-(4-chlorophenyl) biguanide], di-D-gluconate

分子式：C<sub>22</sub>H<sub>30</sub>Cl<sub>2</sub>N<sub>10</sub>·2C<sub>6</sub>H<sub>12</sub>O<sub>7</sub>

分子量：897.76

化学構造式：

性状：クロルヘキシジングルコン酸塩液は、無色～微黄色の澄明な液で、においはなく、味は苦い。水又は酢酸(100)と混和する。クロルヘキシジングルコン酸塩液1mLはエタノール(99.5)5mL以下又はアセトン3mL以下と混和するが、溶媒の量を増加するとき白濁する。光によって徐々に着色する。

比重 d<sub>20</sub><sup>20</sup> : 1.06~1.07

## 20. 取扱い上の注意

使用期限内であっても容器開封後はなるべく速やかに使用すること。

## 22. 包装

1L、500mL(すべてポリエチレン容器)

## 23. 主要文献

- 1) Ohtoshi T., et al.: Clin. Allergy. 1986; 16: 155-161
- 2) Case D. E.: R. Soc. Med. Int. Congr. Symp. Ser. 1980; (23): 39-43
- 3) 渡辺邦友ほか：臨床と細菌. 1974; 1(1): 120-125
- 4) 古橋正吉ほか：臨床外科. 1974; 29(11): 1337-1344
- 5) 桜井純ほか：臨床と細菌. 1974; 1(1): 112-115
- 6) 古橋正吉ほか：臨床外科. 1974; 29(12): 1443-1450
- 7) 重松史郎ほか：新薬と臨床. 1974; 23(10): 1827-1831
- 8) 芦山辰朗：外科治療. 1975; 32(1): 95-99
- 9) 伊藤勝美ほか：病院薬学. 1983; 9(1): 35-39
- 10) 太田伸ほか：臨床と細菌. 1982; 9(1): 93-97
- 11) 菅野敏ほか：基礎と臨床. 1981; 15(12): 6169-6172
- 12) 大杉博信：薬理と治療. 1981; 9(11): 4827-4831
- 13) Hugo W. B., et al.: J. Pharm. Pharmacol. 1966; 18: 569-578
- 14) 市川晃ほか：日本口腔科学会雑誌. 1975; 24(1): 55-60
- 15) サラヤ株式会社バイオケミカル研究所 資料

## 24. 文献請求先及び問い合わせ先

サラヤ株式会社 学術部  
〒541-0051 大阪市中央区備後町 4-2-5  
TEL.06-4706-3938

## 25. 保険給付上の注意

本剤は保険給付の対象とならない(薬価基準未収載)。

## 26. 製造販売業者等

### 26.1 製造販売元

サラヤ株式会社  
大阪市東住吉区湯里2-2-8